

(仮称)那覇市性の多様性を尊重する条例制定に向けての那覇市立小中学校アンケート集計

那覇市総務部平和交流・男女参画課

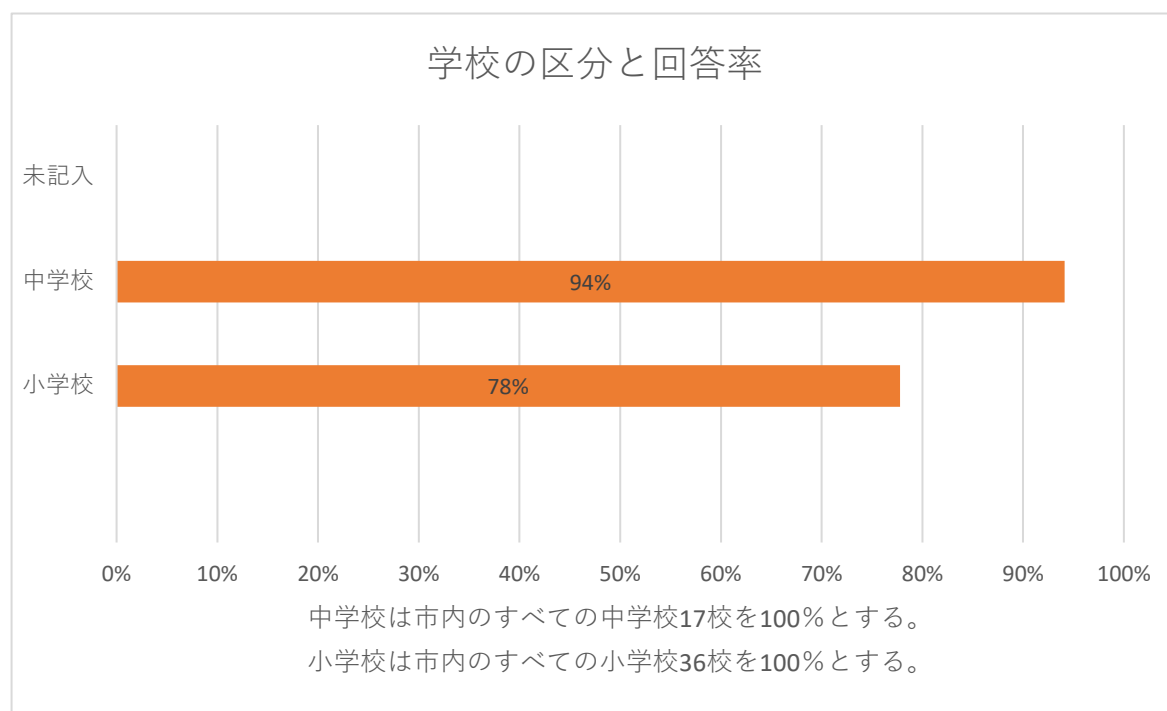
1 調査の概要

名称	(仮称)那覇市性の多様性を尊重する条例制定に向けての那覇市立小中学校アンケート調査
アンケート期間	R7年7月7日(月)～7月31日(木)
目的	那覇市立小中学校では、性の多様性(LGBT等)について、現在どのような取り組みをされているのかを調査し、条例素案策定するための、参考資料とする。
対象団体	那覇市立小学校:36校
	那覇市立中学校:17校
回答数	45校(小学校:28校、中学校 16:校) (小学校又は中学校との記入がないため、判別ができない回答:1校)

2 調査結果

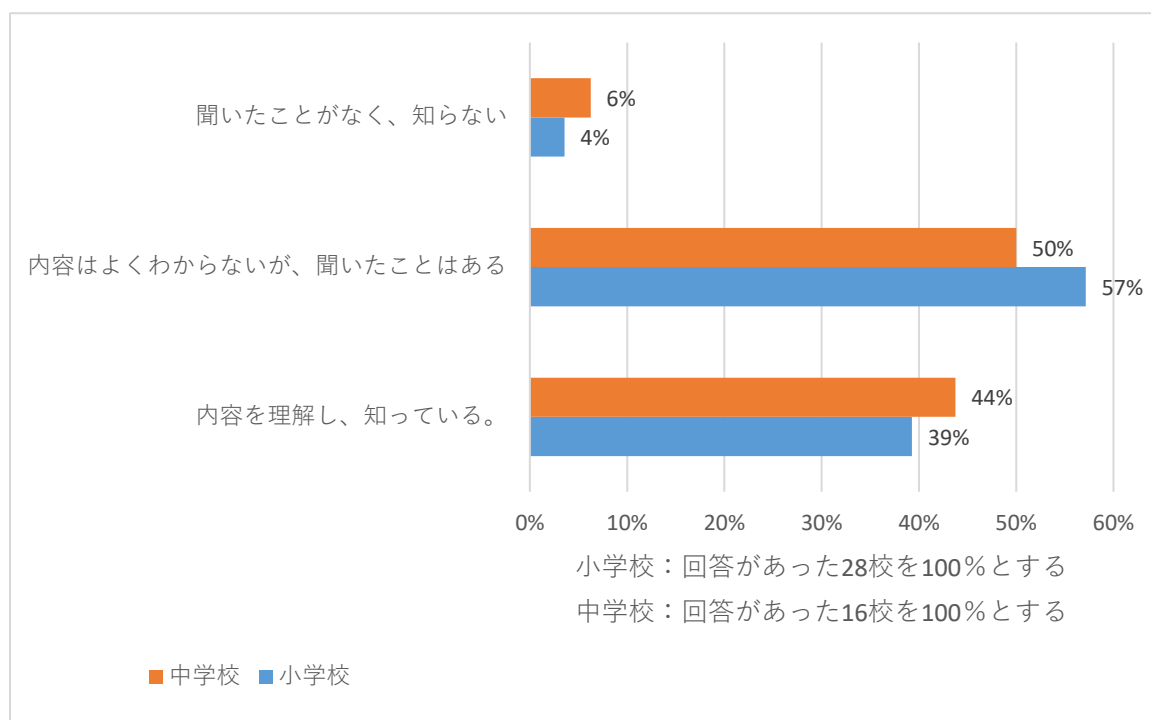
【質問1】学校の区分を教えてください。

小学校36校のうち、78%にあたる28校が回答し、中学校17校のうち、94%にあたる16校から回答がありました。



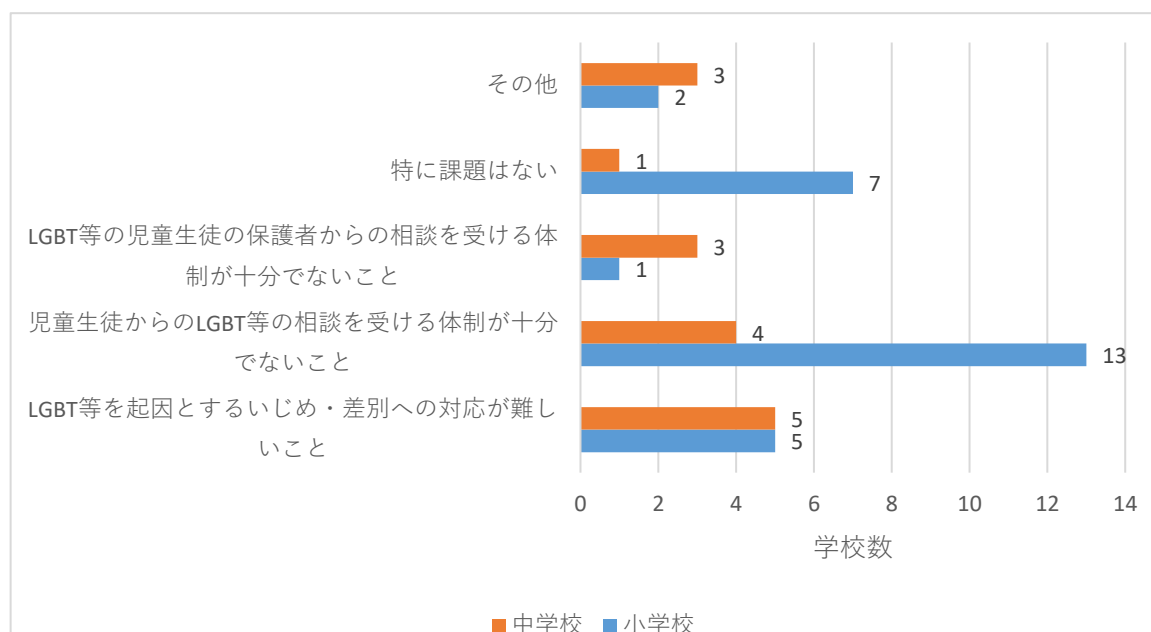
【質問2】 那覇市の取り組みである那覇市パートナーシップ・ファミリーシップの登録について知っていますか？

回答があった小学校28校のうち、57%にあたる16校是那覇市パートナーシップ・ファミリーシップ登録について「内容はよくわからないが、聞いたことはある」との回答がありました。中学校でも、50%にあたる8校が「内容はよくわからないが、聞いたことはある」を選択していました。



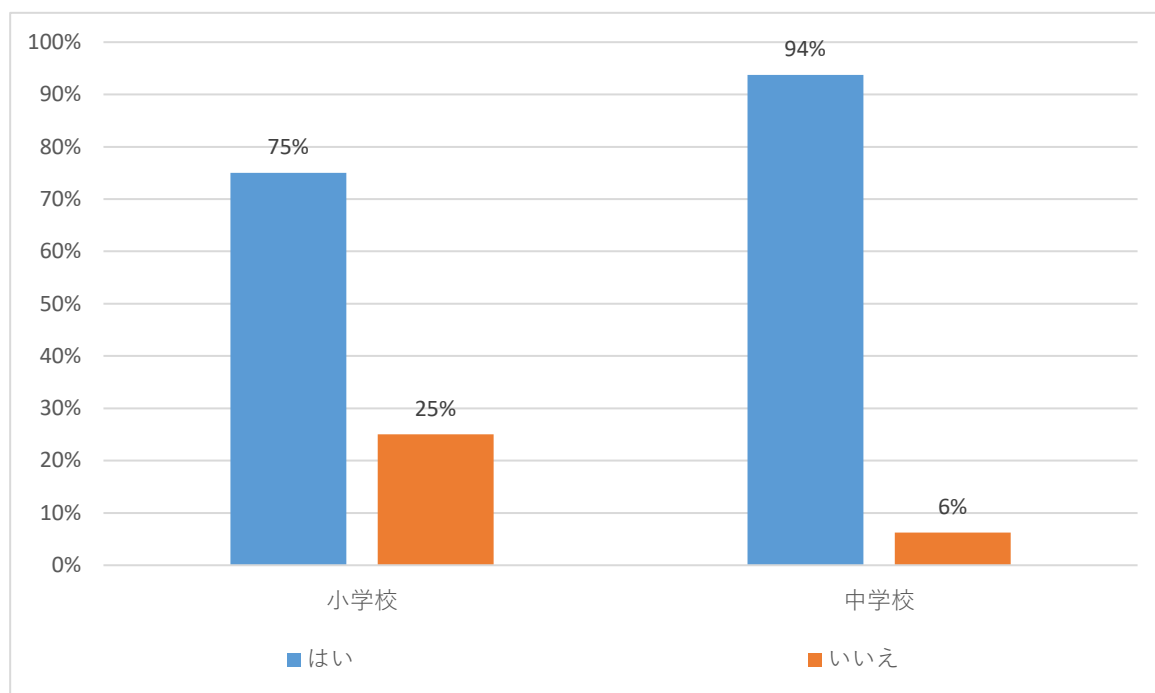
【質問3】 LGBT等の児童生徒への対応等について、どのような課題があると思いますか？

回答があった小学校28校のうち「児童生徒からのLGBT等の相談を受ける体制が十分でないこと」を選択した学校が13校で一番多く、中学校では「LGBT等を起因とするいじめ・差別への対応が難しいこと」を選択した中学校が一番多くなりました。



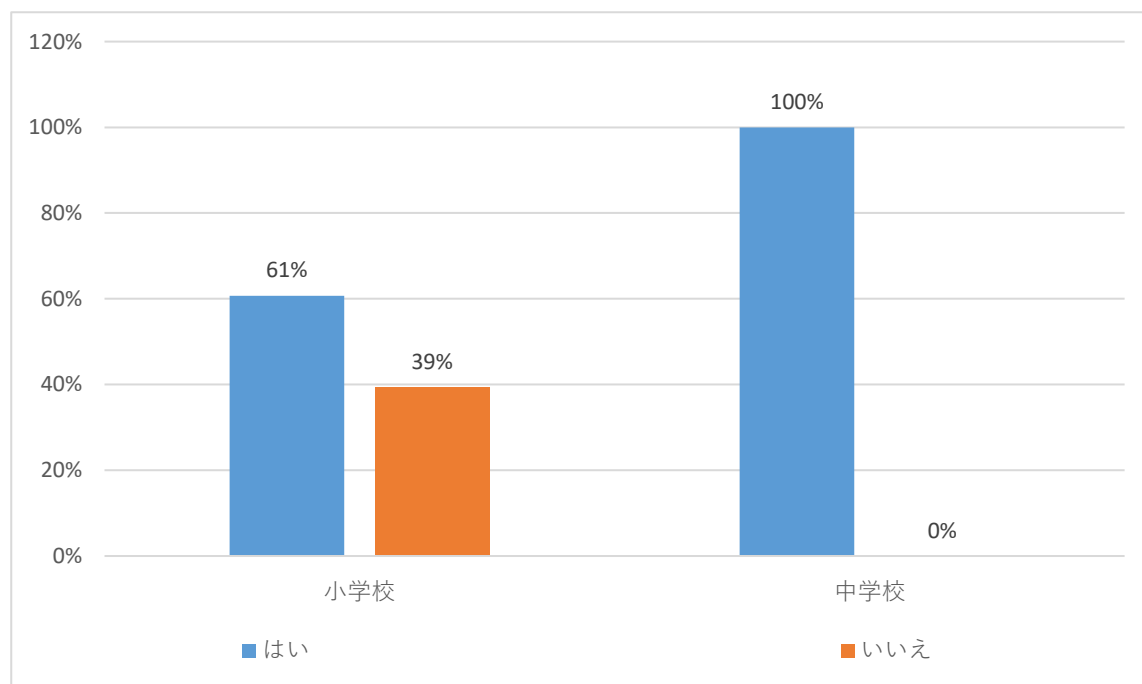
【質問4】児童生徒がLGBT等に関する悩みを相談できる担当者はいますか？

回答した小学校28校のうち、75%（21校）が児童生徒がL G B Tに関する悩みを相談できる担当者があると回答し、中学校では回答した16校のうち94%（15校）が担当者があると回答しています。



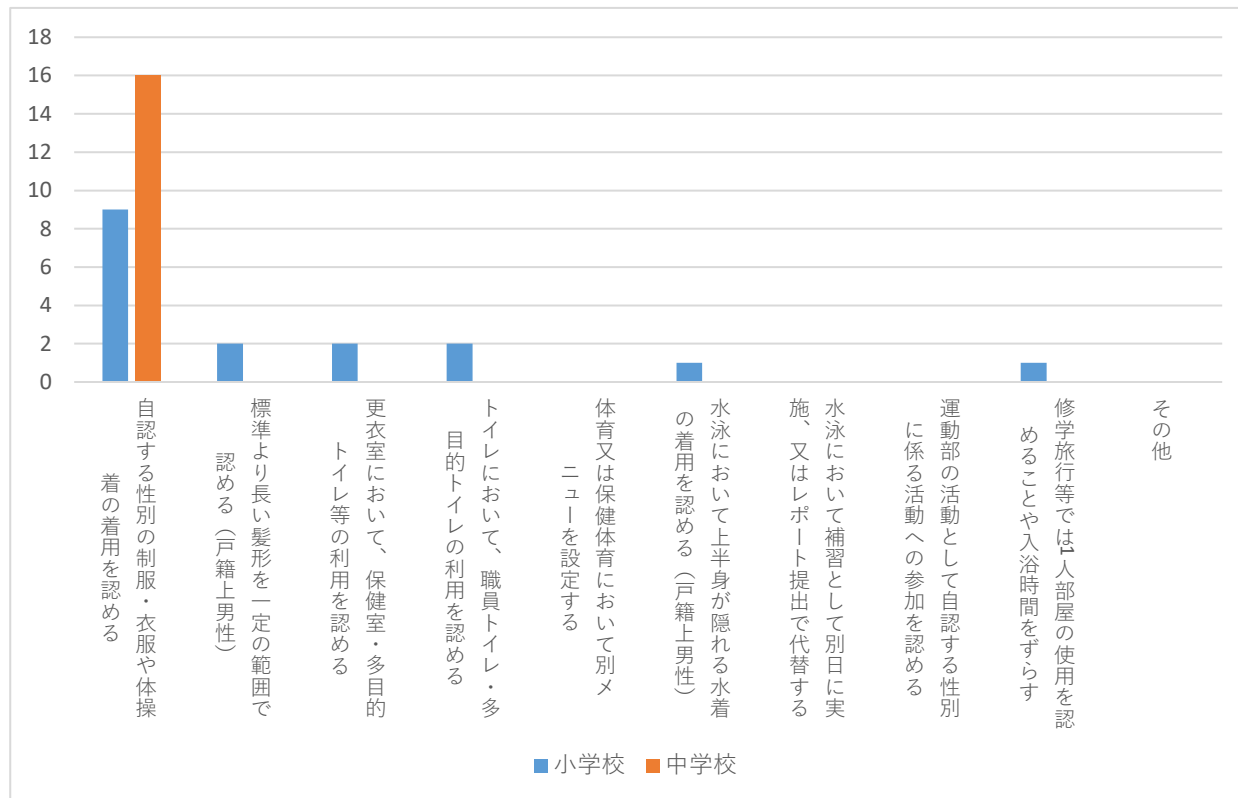
【質問5】学校で、LGBT等の児童生徒へ配慮をした取り組みを行っていますか？

回答があった小学校28校のうち、61%にあたる17校が「配慮をした取り組みを行っている」と回答し、中学校では、回答があった16校すべての学校でLGBT等の児童生徒へ配慮した取り組みを行っているとの回答がありました。



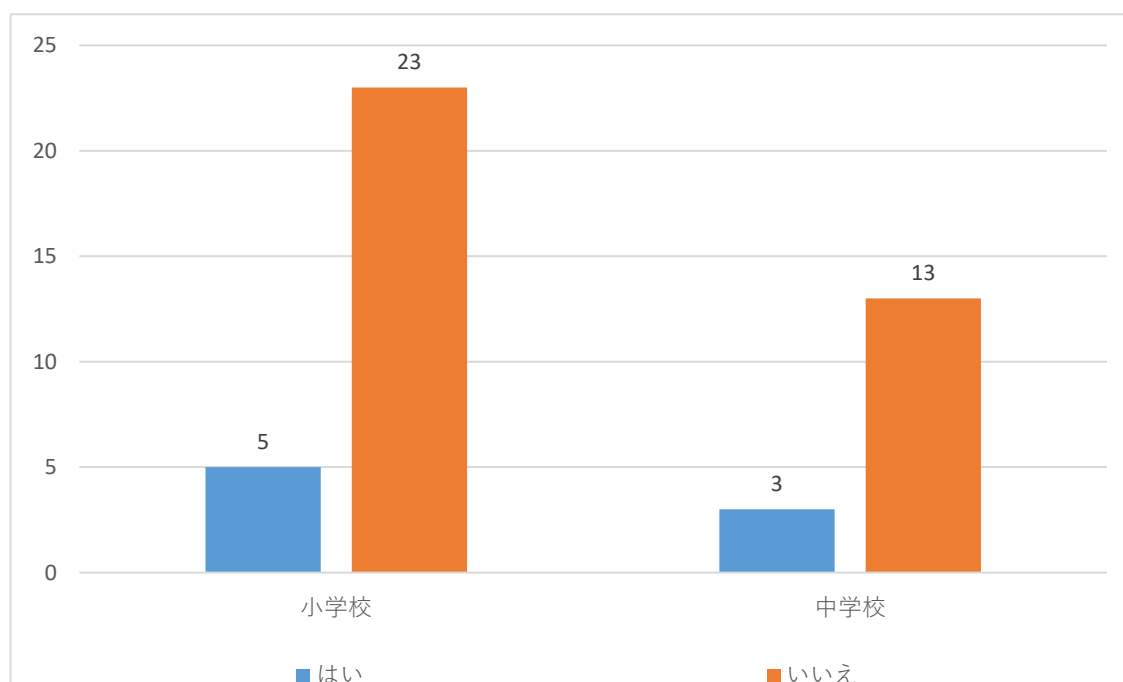
【質問6】 質問5で「はい」を選択した学校への質問です。LGBT等の児童生徒へどのような取り組みを行っていますか。検討している場合も含みます。（複数回答可。）

小学校では、LGBT等の児童生徒について配慮した取り組みを行っているという回答した学校のうち、小中学校どちらも「自認する性別の制服・衣類や体操着の着用を認める」を選択した学校が一番多い状況です。



【質問7】 令和7年6月30日の時点で、学校でLGBT等の教職員等に対して配慮をした取り組みを行っていますか？当てはまる方に○を付けてください。

小学校では、5校が、中学校では3校が、LGBT等の教職員等に対して配慮した取り組みを行っているという回答がありました。



【質問8】質問7で「はい」を選んだ学校への質問です。LGBT等の教職員等にどのような配慮を行っているのか下記へ記入をしてください。

- ・スクールカウンセラーを配置するなど、相談しやすい体制を整えている。
- ・更衣室やみんなのトイレを使用させている。
- ・バリアフリートイレの使用
- ・過去に、2名の該当職員がおりましたが、単純に、秘密を守り普通に接するのみです。
- ・LGBTに関わらず、お互いの個性を認め合える環境、雰囲気大切と考える。現時点で配慮を要する場面は見られないが、日頃から相談しやすい環境をつくっていききたい。
- ・制服の自由選択・その特性に応じた臨機応変な対応
- ・更衣室などの柔軟な使用。
- ・必要に応じて、本人の意向を尊重した上で、所属や配置、服装上の配慮を行う。

【質問9】LGBT等の児童生徒が学校でより楽しく生活するためには、どのような施策が必要だと思いますか？（任意）

- ・様々な施策は出されているが、理解や認識のズレなど、まだまだ認め合える社会の風潮ではないことから各施策のますますのPRが必要。
- ・児童生徒がLGBT等を受け入れる心の準備ができていない。児童生徒は冷やかしいじめの対象としか見ていない状況が今でもある。社会や学校が変わらなければ児童生徒も受け入れきれないと思う。LGBTを受け入れやすい社会や学校にしていく施策が必要だと思います。
- ・LGBT等の児童生徒について特有の支援を行う。例えば、学校内外にサポートチーム（当事者の児童生徒、保護者、教職員、医療機関、教育委員会などで構成）をつくり、対応をすすめたり、相談体制を充実させたりする。
- ・ハード面やソフト面での対応が必要
・学校内にあるプライベート施設を3つにする（男子用・女子用・多目的用）
・道徳教育にLGBT等の教材をいれる。
- ・多様な性のあり方を尊重する教育を行い、偏見のない風土づくりを進めるとともに、安心して相談できる体制の整備が必要です。
- ・児童生徒だけでなく、保護者も相談できるような窓口を設けて、周知する。（周知が重要になってくると思います）
- ・人権教育の充実
- ・次年度から、制服のモデルチェンジをし、ジェンダーフリーにすることが決まっている。中学校では、人権教育の浸透で、お互いの特性を認め合う雰囲気が醸成されているので、男女とも差異無く仲良くしている。卒業して後の人生設計についての悩みもあるように思う。
- ・トイレや服装の配慮、相談体制の充実など、日常生活でも安心できる対応が必要。
- ・今後益々、LGBT等の児童生徒が増えてくることが予想されます。その際、トイレの使用についての対応が迫られるので、各階に多目的トイレを設置することが望まれます。
- ・施設の改修。トイレなどの整備。

・当事者家族の受け止め方次第だと思います。
・多目的トイレの設置の推進。学校におけるLGBTも含めた「個性」の尊重を道徳や学活で学ぶ。
・LGBTがどうか以前に人権についてしっかり学習していれば差別はしないし、楽しく学校生活を過ごせると考えています。性同一障害で悩んでいる児童については、教育相談週間を実施したり養護教諭と相談できる体制はできていると思う。ただ、説明しやすい教材等があれば支援しやすくなると思う。
・教職員が正しい知識を学ぶこと。無理解のまま生徒や保護者に応対しないようにする体制づくり。
・自分が当事者であることをオープンにできる子と隠したい子がいると思う。そういう児童が身近にいるかもしれないことを考え、啓発していくことは大切であるが、からかいの対象になってしまうことがないようにしなければならないと思う。トイレなどは、別のところを使うとあるが、それはそれで何か言われてしまうのではという恐れもあると思うので、男女どちらも利用できるトイレが複数箇所であると安心して入れると思う。
・道徳等の教材でLGBTに関する資料を用いた授業づくり。LGBTに関する教育講演会等の企画・実施。
・本校の施設が古いため、車椅子でも利用できるような多目的トイレの設置がない。今のところLGBTの相談がないので、対応に苦慮することはないが、設備が整うと安心である。
・みんなのトイレ等の設置(名簿、制服、講座、学校でできるものは行っている)。
・施設、設備の拡充。相談窓口は養護教諭、各学級担任であるが対応の際、温度差はあるように感じられる。
・性の多様性が無意識のうち(自然な形で)に認められる学校
・学校施設設備の充実(多目的トイレ等の積極的な設置)
・学年や学校全体でのLGBT等への理解を図る 授業や講話、ワークショップなど、講師をお招きして行う場合の講師派遣費を予算化してほしい。多目的トイレ、更衣室の整備増設 いつでもだれでも使えるよう整備を行うため、施設課との連携をお願いしたい。

【質問10】本アンケートやLGBT等について、自由に記述してください。

・学校現場での理解やその取組は、だいぶ以前から積極的に行われている。そのような教育を受けた子どもたちが社会で活躍する年代になりつつあることから、少しずつであれ社会の理解は深まっていくと思う。
・LGBTを受け入れやすい社会や学校、カミングアウトしやすい雰囲気をもどのように作っていくかが課題なのかなと思います。
・LGBT等の当事者であっても、そうでなくても、できることを躊躇せずできる社会になるとよいと思う。
・質問6の選択肢について 選択肢のほとんどがLGBTへの特別な配慮ではなく、すでに実施している内容である「指針」の見直しが必要ではないか。
・LGBT等に関する生徒への対応のための施設整備を計画していただきたい。
・「質問4」で、「はい」と回答しましたが、養護教諭を指します。この質問への回答は、当事者以外は回答しづらいのではないのでしょうか。
・質問6に関しては、現時点で対応していないことは、チェックを入れていないが、要望がある場合は対応する。 ・質問6のイ)は、髪型の範囲はない。
・LGBTや障害者も含めて、全ての人が、幸せで生活しやすい社会になるといいなと思います。
・今の子どもたちは、性の多様性を受け入れつつあるのかなと思っている。また、教職員の中でも、LGBTの児童がいれば対応しようという気持ちはあると思うが、どう対応したらいいのかが難しいと感じている教職員が多いと思う。LGBTの当事者でも考え方や思いもそれぞれだと思うので、個々の思いに対応していく必要があると思う。

・LGBT等多様性に関する学びは今後益々重要になると考えます。学校でも子ども達にもこれらの情報に積極的に触れ、考える機会を作る必要があると思います。

・マイノリティであろう低学年への対応や対策があれば教授いただきたい。

・学校だけではなく、社会全体への呼びかけが弱いと思います。マスコミ等を広く利用して幅広い活動を期待します。子どもたちの教育の阻害要因は、無知な大人が1番の課題です。社会教育へのアプローチは、どうなっていますか？